

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の職員への浸透、現状に即した理念を見直し地域密着型サービスの役割取り組みを継続していく必要がある。	理念、地域密着への取り組みが全職員に浸透する。	地域の方々が気軽に来所し、談話したりできる雰囲気づくりのための計画を全職員と共に考える。 (例)行事開催発信、売店、喫茶コーナー設置	12ヶ月
2	35	非常災害時の対応について地域の協力体制を検討する必要がある。	特に夜間帯で人員配置が最小限の際での避難誘導について最小限の動きで避難誘導が行えるようになり、地域住民の協力体制も構築する。	避難訓練は年2回行っているが、マニュアルを簡素化、誰もが最小行動により、最大限の避難誘導、緊急時対応ができるように見直す。運営推進会議で地域の協力体制が受けれるよう協議し体制構築を行う。	12ヶ月
3	33	看取りについてのマニュアル作成、研修の実施により、職員が不安を持つことなく統一した方法で対応できる体制作りが必要である。	個々により違うであろうニーズを踏まえながらも、看取りに関するマニュアルを作成し、研修会を実施していく。また入居者、家人への定期的なニーズの探求、変化があった時のニーズの把握を徹底する。	看取りについてのマニュアルを作成し、研修会を計画する。入居契約時には必ず看取りの指針に沿って説明し、定期的、変化時には必ずその都度経過を看護記録に記載し、全職員が共有できるようにする。	12ヶ月
4	26	利用者の些細な変化を見逃さないよう、毎月モニタリングの中で職員の気づき、意見が反映出来るような取り組みをする必要がある。	変化の少ない入居者においても些細な変化に気づくモニタリングが行え、介護計画に反映することができる。	モニタリングシートを作成し、些細な変化が探究できるようにする。それを元に介護計画、毎月の家人への報告「あかとんぼ新聞」にも反映できるように全職員に浸透する。	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。